



学生番号:14106182	クラス:F	氏名:金 美華	提出日:2010年1月14日
論題	パチンコ産業において重要視される要素と消費者間の相違		

【 キーワード 】 パチンコ産業、消費者、知覚リスク、知覚リスク低減法、
マーケティングアプローチ

【 論文要旨 】

本論文の目的は、パチンコに対して消費者が感じる知覚リスクの低減法を解明し、その低減法が性別や経験の有無によってどのように相違するのかについて明らかにすることである。そもそもパチンコは大衆の娯楽として誕生し、急速な発展を遂げた。2002年におけるパチンコ産業の市場規模は、余暇市場において最大級の規模である29兆2250億円を占めていた。しかし、その発展も過当な競争の現代社会において売上げが減少しており、またギャンブル性が高まったことでさまざまな社会問題が生じているため、パチンコ産業はもはや生き残りをかけた時代に突入しているといえる。このことから、パチンコ産業が今後、消費者にとって健全な大衆娯楽としてのポジションを確立することで、市場の活性化に繋がるのではないかという思いを出発点として本論文を作成することとした。したがって、本研究のテーマをパチンコ産業において重要視される要素とその消費者間の相違に設定した。

本研究は第6章から構成されている。まず、第1章ではパチンコ産業の始まりから現在までの発展について述べていき、その中で現状における課題点について言及する。第2章では、論点を消費者に移し、「どのようにしてパチンコに対する消費者の社会的認知を上げればよいのだろうか」という問題意識をたてる。また、消費者の特性について知覚リスクという概念を取り上げ、「パチンコに対して消費者が感じる知覚リスクの低減法を解明し、その低減法が性別や経験の有無によってどのように相違するのかについて明らかにする」ということを研究目的として定める。そして第3章では、研究目的に基づいて調査を行うための方法について検討し、質問紙によるアンケート調査の概要について述べる。第4章では、分析方法について示し、パチンコに対する知覚リスクと知覚リスク低減項目との相関関係を測定する。そしてその結果をもとに、仮説を導出していく。第5章では、分析結果から導き出された仮説の考察を述べるとともに、新たなマーケティングアプローチを提案する。第6章では、本研究のまとめとして、本研究における有意性、それから本研究の限界点および今後の課題を論じ、本研究を結ぶ。